



ハエの防除対策をしましょう

そろそろ気温が上昇し、ハエの発生が始まる時期です。対策を怠ると大量発生し、家畜のストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情など深刻な弊害が生じます。薬剤を適切に使用し、効率的な防除に努めましょう。

ハエのライフサイクルと対策

卵
(約1日)



うじ
(約2日)



さなぎ
(数日間)



成虫
(約3週間)

★幼虫対策

ハエの基本的対策で、費用対効果が高い方法です。

【方法】

うじの発生場所にIGR剤(昆虫発育抑制剤)を希釈して1か月毎に散布します。ハエが増えてきたらIGR剤の散布回数を2週間間隔に増やしましょう。
※薬剤の濃度を守り、十分な量を均一に散布します。散布する間隔があき、薬効に切れ目をつくると十分な効果が得られません。

★成虫対策

毒餌法は、ハエを引きつける餌(砂糖、粉ミルク、お酒、糖蜜など)に有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して成虫を退治します。

【方法】

- ① 薬剤を水で10倍に希釈
 - ② 0.5%程度の糖蜜や砂糖水を混合して洗面器等に適量入れる。必要に応じて粉ミルク、お酒を加える。
 - ③ 農場の適切な場所に設置する。
- ※家畜やペットが誤って食べないように注意が必要です。

★環境対策

ハエが繁殖する場所を無くします。畜房のすみ、污水だまり、残餌など発生源を重点的に清掃、除糞し乾燥させます。早めの除糞が大切です。

★堆肥処理

発酵熱と乾燥でウジを退治します。適切な水分調節と切り返しが重要です。温度が40℃以上、水分50%以下の条件でふ化率が激減します。卵がふ化しない1週間以内の間隔で切り返しを行うことが必要です。昼間ブルーシートでおおい、日光の熱を蓄えて堆肥の温度を上げましょう。